

ナイスケアだより

第171号 令和8年8月発行

ホームページ

Instagram



いつも当事業所のサービスをご利用いただき、心より感謝申し上げます。

私事ですが、私の母は現在91歳で、有料老人ホームに入所して3年になります。

かつて母は「子どもに介護の負担をかけたくない。自分で貯めたお金で老人ホームに入りたい」と一貫して話していました。その後、85歳を過ぎてからがんを患い、認知症も発症しましたが、その希望は変わりませんでした。

私は居宅介護支援・訪問介護の現場で「住み慣れた自宅での生活」の大切さを日々実感しているため、施設への入所にはとても迷いがありました。しかし、最後は「母の気持ち」を一番に尊重しようと決めました。

職員の皆さんの丁寧な対応や雰囲気になじめ、自宅近くの施設に決めて3年。先日面会へ行くと、母は「ここに入れて幸せ。穏やかに過ごせる」と笑顔で何度も話してくれました。

在宅介護を支える立場として、施設への入所には葛藤もありました。しかし、何よりも「本人の意思に寄り添うこと」が大切なのだと、母の姿から改めて教わっています。これからも皆様の一番の味方となり、ご希望に寄り添った支援に全力を尽くしてまいります。



有限会社ナイスケア 代表取締役 塩川 隆史

～夏休みの思い出～

私も年を重ねて昔を思い出すことが増えてきた今日この頃です。そこで今回は幼少期の頃の夏休みの思い出をお話しようとおもいます。

その当時ブームだったのはインベーダーゲームです。友達とプレーしに行き、1ゲーム100円だったので、当時のお小遣いでは1回程しかできず、大人がプレーしている姿を羨ましく見ていた苦い思い出があります。今もゲームセンターで後ろから見ている子供たちをみると当時のことを思い出します。

もうひとつスーパーカーもブームになっていて、写真を撮りに行ったり、スーパーカー消しゴムを集めたりしていました。私はスーパーカーがカッコイイとは思っていませんでしたが、友達の写真撮影に付き合わされていました。友達が学校で写真を見せびらかし、先生に取り上げられていましたが、当時はフィルムカメラだったので、数日後にはまた写真を持ってきて怒られていたのを楽しく眺めていた記憶があります。

皆様の夏休みにはどんな思い出がありますか？

穴倉 昭一